

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: The association between gestational use of personal care products and neonatal urological abnormality at birth: The Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠期のパーソナルケア製品使用と男児新生児の泌尿器異常との関連

ユニットセンター(UC)等名: コアセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Reproductive Toxicology

年: 2020 月: 4 巻: 93 頁: 83-88

筆頭著者名: 西浜柚季子

所属UC名: コアセンター

目的:

母親の妊娠中のパーソナルケア製品(抗菌石鹸、制汗剤、香りの強い化粧品、マニキュア、ヘアカラー、日焼け止め)の使用頻度と新生児の先天性腎尿路系異常との関連について疫学的手法を用いて調べた。

方法:

CAKUTは、水腎症、嚢胞性腎疾患、腎無形成、膀胱外反症のいずれかを持つ対象者とした。PCP使用は、妊娠中後期に実施した自己記入式質問票の回答から、薬用石鹸や抗菌石鹸、体臭防止剤、香料の強い化粧品や香水、マニキュアやネイルアート、染毛剤やパーマ液、日焼け止めクリームの使用頻度を用いた。統計解析は、交絡要因と考えられる妊娠女性の年齢を調整要因として、ロジスティック回帰分析を行った。

結果:

2016年4月に確定された妊娠女性約10万人のデータを使用した。解析対象は、調査への同意撤回、多胎、死産、流産、PCPの使用頻度および関連因子と考えられるものに欠測データがある人を除いた86,899人とした。CAKUTと診断されていたのは215名で、1,000人に2.5人であった。妊娠中にパーソナルケア製品を1点以上使用していた母親は、77,722人(89%)であった。統計解析の結果、母親の妊娠中のPCP使用とCAKUTとの間に関連は認められなかった。

考察:(研究の限界を含める)

本研究は、妊娠中のPCPの使用と、CAKUTの関連について検討した初めての研究である。解析の結果、妊娠中のPCPの使用とCAKUTとの間に関連は見られなかった。本研究では、パーソナルケア製品(抗菌石鹸、制汗剤、香りの強い化粧品、マニキュア、ヘアカラー、日焼け止め)の使用は、質問票を用いて調査した。そのため、使用頻度が必ずしも正確に測れていない可能性がある。

結論:

妊娠中のPCPの使用とCAKUTとの間に関連は見られなかった。現在測定が進められている、母親の尿中の内分泌かく乱物質濃度を用いたより詳細な解析を実施する必要がある。